

Q 人口減少危機、日本の社会の一大事

すぎた 杉田 やすゆき 恭之 議員



A 安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進する

問 本市の出生数の推移は。

答 昭和60年以降おおむね横ばいで推移してきたが、平成19年から減少傾向に転じた。

問 人口減少危機をどう捉えているか。最大の要因の分析は。

答 経済や国民の生活に大きな影響があると認識している。出生数の減少は、結婚、出産の経済的負担が大きいことなどが影響していると考えられる。

問 学校教育の場では（家族、結婚等を）どう教えているか。

答 児童・生徒の発達段階に応じて、家庭生活の大切さや子どもを産み育てることの意義、妊娠、出産等の知識について教育を行っている。

問 これまでの少子化対策は。

答 妊娠、出産、子育てを切れ目なくサポートする鶴ヶ島版ネウボラにより、きめの細かいサ



問 仮称「鶴の子育てプロジェクト」に改称し、事業責任者を置く考えは。

答 組織の枠を超えた連携が重要である。見直しの際は様々な観点から検討していく。

問 今後の本市の少子化対策の展望は。

答 第6次鶴ヶ島市総合計画の重点戦略の子どもにやさしいまちづくりを引き続き推進する。



Q コロナ感染症の学校での対応と対策は

おがわ 小川 しげる 茂 議員

A 様々な状況を想定し、感染拡大防止の取組を継続する



鶴っ子土曜塾の様子

問 臨時休校中の学習課題と再開後の授業の進め方について。

答 学習課題の内容は、復習プリント、新たな学年の予習を行うドリル等が主なもので、授業再開後は、臨時休業時に学習課題として取り組んだ内容の確認や昨年度の学習内容の復習を行った。

問 再開後の児童・生徒の様子（観察）について。

答 各学校は心のケアの対応として、アンケートや面談等を実施して、児童・生徒の心の状態を丁寧に把握している。

問 「小・中学校鶴っ子土曜塾」開講の状況について。

答 児童及び生徒の学習に対す

る不安に寄り添いながら「できた・わかった・もっと学びたい」という学習意欲の向上と学習の基礎・基本の定着を目的として鶴っ子土曜塾を開設した。

参加している児童、生徒及び学習支援員の大学生も、回を重ねるごとに慣れ、とても和やかな良い雰囲気での学習に取り組んでいる。意欲的に課題に取り組む、年齢が近い支援員の大学生に、親しげに積極的に質問している児童及び生徒も多く見受けられる。大学生も学習支援員としての役割を自覚し、責任をもって取り組んでいる。